滋賀大学大学院経済学研究科　経営分析学専攻

MBANコース

データを駆使した経営のプロフェッショナル養成
日本初の学位「MBAN（Master of Business Analytics）」を授与する専攻

MBAN/em’baen/noun

The Master of Business Analytics is a dynamic degree program designed to turn ambitious professionals into data-savvy leaders. It focuses on harnessing analytics to craft data-driven strategies, optimizing business decisions and powering transformative insights across industries.

SHIGA UNIVERSITY

Okamoto Tetsuya

岡本 哲弥

大学院経済学研究科長・教授

MBANで経営学と データサイエンスの二刀流を目指す！

経済学研究科が令和6年度に新設した経営分析学専攻（MBAN：Master of Business Analytics）は、文部科学省が公募する「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」に本学の「データサイエンス×経済・教育（DS×E2）高度専門人材養成プログラム」が採択されたことによるものです。

MBANのコンセプトは、DX（digital transformation）を推進し価値創造に貢献できる、経営とデータサイエンスの二刀流人材「ビジネスサイエンティスト」の養成です。そのため、経済・経営系の科目に加えて、データサイエンス研究科からも多くの授業が提供されています。これらをバランス良く学ぶことで、ビジネスの現場の課題解決に必要な知識とスキルを修得することができます。そして、MBANの集大成として、社会の様々な現場で生成されるデータや所属企業のリアルなデータなどを分析し修士論文を執筆します。

初年度、MBANには多くの社会人が入学されました。業種は金融、メーカー、IT、運輸など様々ですが、いずれの社会人院生も真剣にリスキリングに取り組まれています。経済学研究科でビジネスサイエンティストを目指してみようという皆様をお待ちしています。

MESSAGE

DX化時代に世界中で注目される MBANプログラム

経営分析学修士プログラム（MBAN）は、DX化に伴うビジネス環境の変化を背景に、世界中で注目を集め、急速に評価を高めています。具体的には、MBANプログラムでは、従来の経営学に加えて、ビジネスデータ分析、統計学、機械学習といった高度なスキルを修得できるため、修了生はデータをフルに活用した意思決定が求められる企業において即戦力として期待されています。

実際にUCLAやMITなどの代表的なビジネススクールでも、従来のMBAプログラムに加えてMBANプログラムを提供し、人気となっています。Amazonやマイクロソフトといったテクノロジー系企業だけでなく、金融、コンサルティング、ヘルスケアなど幅広い業界でMBAN修了生の需要が高まっており、就職状況は極めて良好です。これは、ビジネスモデルやプロセスを最適化するためにデータ分析の専門知識を活用する必要性が高まっていることと関連します。

滋賀大学のMBANプログラムは、ビジネス戦略とITの架け橋となれるようなスキルを効率よく学び、データインフォームドな意思決定が不可欠な現代ビジネスにおいて活躍できる人材の育成に最適です。

Nakano Katsura

中野　桂

大学院経済学研究科
経営分析学専攻長・教授

いま世界中の企業が注目する次世代経営者向け学位

― データサイエンティストと協働し新たな価値を創造する次世代経営人材 ―

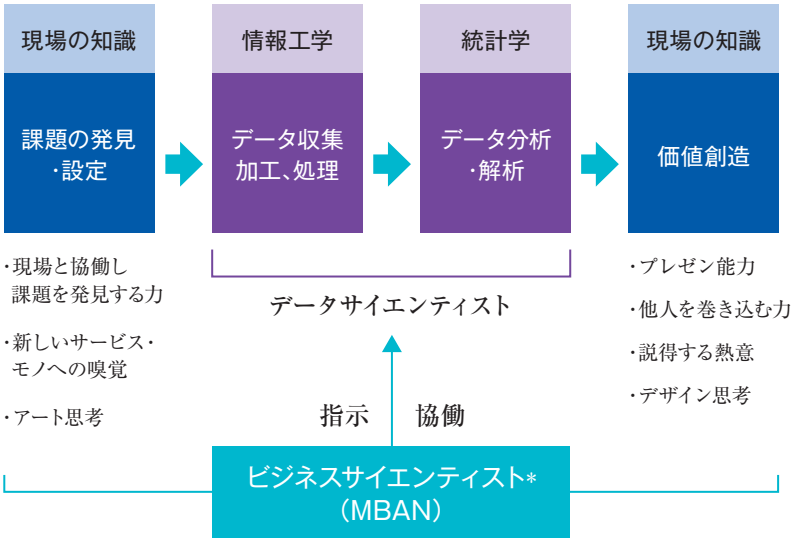
生成系AIの登場はビジネス界にかつてないほどの大きな変革をもたらしつつあります。さらに大きな枠組みでいうと、企業におけるDX化推進も待ったなしの状況になっています。しかしながら、こうしたビジネス環境の変化に対応できる人材の確保に不安を抱える企業も多いのではないでしょうか。

そうしたニーズに応える、新しい大学院教育プログラムが滋賀大学で始まりました。経営分析学専攻は、英語ではMBANと呼ばれています。これはMaster of Business Analyticsの略で、ケーススタディーに特徴のあるいわゆるMBAとは異なり、データサイエンスを用いて企業や消費者などのデータを分析し、経済・経営の専門知識と組み合わせて業務革新をはかることを学ぶプログラムです。

経営・経済の知識にデータサイエンスの
実践的知識・スキルを融合

↓

ビジネスに付加価値や競争力をつけることができる



*ビジネスアーキテクト、エンタープライズアーキテクトとほぼ同義。
学部のデータサイエンスコース履修生も含むが、大学院レベルのプログラムとして経営分析学を設定し、養成。

データサイエンティストがデータの収集や分析をメインとするのに対して、ビジネスサイエンティストはより幅広く、課題の発見から価値創造までをカバーします。データサイエンスの知識も有するので、その過程ではデータサイエンティストに指示を出したり、協働したりしながら、企業に新たな価値を生み出していきます。

これまで多くの企業では経営陣とデータサイエンティストの連携がうまくいかずに、多くの利益機会を逃してきています。だからこそ、DX化時代にビジネスサイエンティストが必須なのです。経営分析学専攻（MBAN）では、データサイエンティストと協働し、新たな価値を創造できるビジネスサイエンティストを養成します。

産業界からの期待

ルゾンカ典子様

コスモエネルギーホールディングス株式会社
常務執行役員 CDO

ビジネス現場において即実践力となる、DSスキルと経営知識の両方を習得できる斬新でバランスのとれた経営分析学コースですね。どの業界においてもデータドリブンな経営判断やビジネス課題解決力は必要とされています。期待しています！

小林 文彦様

伊藤忠商事株式会社
副社長 CAO

まさに今、企業が必要とするビジネスとDXの融合へ、真正面からアプローチするMBANコースが新設されました。MBANで学ばれた人材が、グローバルな社会、経済の新たな潮流の中で、次世代のビジネスリーダーとして、大いに活躍することを期待しています。

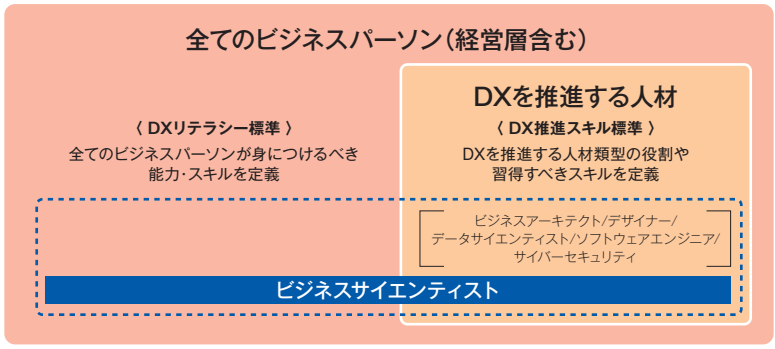
越智 道夫様

ミイダス株式会社
執行役員 CMO

企業では、DXで競争優位を築く事に取り組みだしている一方、経営層と現場の知識の違いがDX化の障壁にもなっています。このMBANは経営への深い理解とエンジニアリングやデータの知識を持つ新時代のDXリーダーを輩出し、企業の成長を促進すると確信しています。

滋賀大学の育成するビジネスサイエンティスト

経済産業省のデジタルスキル標準では、すべてのビジネスパーソンが身に付けるべき能力・スキルとしてDXリテラシー標準が、そして、DXを推進する人材が身に付けるべきものとしてDX推進スキル標準が定められています。 滋賀大学の経営分析学専攻で育成する人材は、まさにこの両者をまたぐものであり、これをビジネスサイエンティストと呼びます。
これは、経済産業省の示す人材類型に従えば、下の図の青い枠で囲まれた部分になります。



人材類型	ビジネスアーキテクト	デザイナー	データサイエンティスト	ソフトウェアエンジニア	サイバーセキュリティ
ロール （DXの推進において 担う責任、主な業務、 必要なスキルにより定義）	ビジネスアーキテクト（新規事業開発） ビジネスアーキテクト（既存事業の高度化） ビジネスアーキテクト（社内業務の高度化・効率化）	サービスデザイナー UX／UIデザイナー グラフィックデザイナー	データビジネスストラテジスト データサイエンスプロフェッショナル データエンジニア	フロントエンドエンジニア バックエンドエンジニア クラウドエンジニア／SRE フィジカルコンピューティングエンジニア	サイバーセキュリティマネージャー サイバーセキュリティエンジニア

上記図表は経済産業省のデジタルスキル標準（https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/skill_standard/main.html）をもとに滋賀大学が作成。

経営分析学専攻で育成するスキルセット・マインドスタンス

経営分析学専攻は、経済学研究科とデータサイエンス研究科双方が提供する科目によってビジネスサイエンティストとして必要なスキルセット・マインドスタンスの修得を行います。紫の網掛け部分は、データサイエンス研究科から提供される科目によって、身に付ける力です。 青の網掛け部分が、経済学研究科から提供される科目によって、身に付ける力です。

DXリテラシー標準策定のねらい

ビジネスパーソン一人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

スキルセット

Why DXの背景
- 社会の変化
- 顧客価値の変化
- 競争環境の変化

What DXで活用されるデータ・技術
- データ
  - 社会におけるデータ
  - データを読む・説明する
  - データを扱う
  - データによって判断する
- デジタル技術
  - AI
  - クラウド
  - ハードウェア・ソフトウェア
  - ネットワーク

How データ・技術の利活用
- 活用事例・利用方法
  - データ・デジタル技術の活用事例
  - ツール利用
- 留意点
  - セキュリティ
  - モラル
  - コンプライアンス

マインドスタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方
新たな価値を生み出す
基礎としてのマインド・スタンス

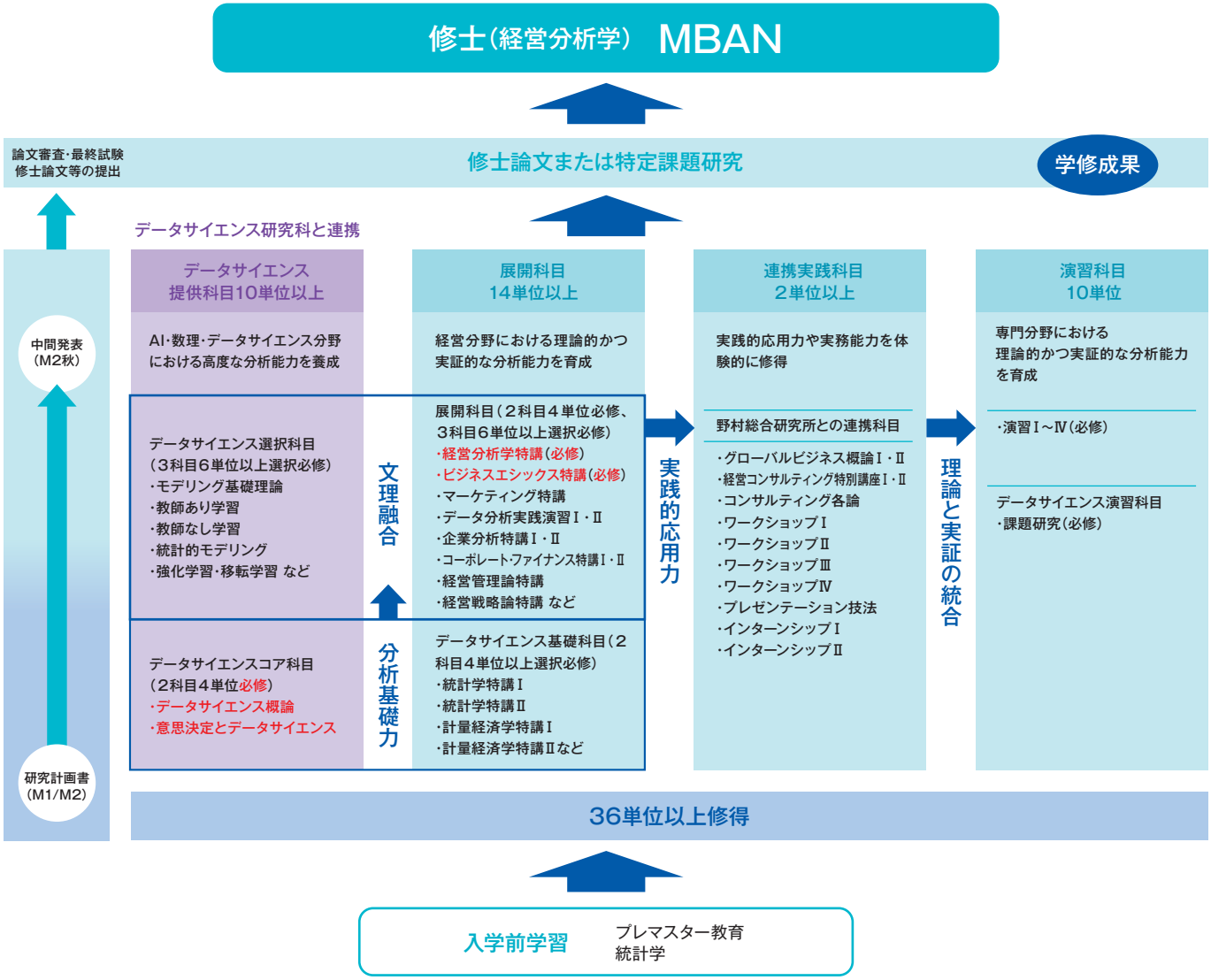
- 顧客・ユーザーへの共感
- 常識にとらわれない発想
- 反復的なアプローチ
- 変化への適応
- コラボレーション
- 柔軟な意思決定
- 事実に基づく判断

データサイエンス研究科で提供　経済学研究科で提供

DX化時代に「使える」人材を目指すプログラム

― カリキュラムと修了要件 ―

企業にはさまざまなデータが埋もれています。本プログラムは、DX化推進担当やマーケティング担当はもちろん、人事労務管理や財務会計・管理会計、総務企画など企業のあらゆる分野で活躍する皆様のキャリアップを支援します。CMO、CFO、CHO※などとして、DX化時代をリードする次世代経営人材の養成を行います。



●経営分析学専攻では、経営データ分析に必要な経済・経営学的知識を経済学研究科の展開科目から、AI・数理データサイエンスに関する知識をデータサイエンス研究科提供科目から、実践的な知識を連携実践科目を通じて習得を目指します。

●本専攻が育成する人材像は、DX化推進担当者、マーケティングデータ分析担当者、人的資本情報分析担当者などの高度なデータ分析専門職能などの経営データ分析のプロフェッショナルです。

※ CMO（Chief Marketing Officer：最高マーケティング責任者）
CFO（Chief Financial Officer：最高財務責任者）
CHO（Chief Human Officer：最高人事責任者）

履修モデル

経済・経営の専門科目とデータサイエンス系の科目をともに学ぶことができる文理融合のカリキュラムです。その中で、DX時代を意識したビジネスエシックスも必修科目としています。演習系科目では、専門分野における理論的かつ実証的な分析能力や実務能力を体験的に身につけることができます。履修モデルを参考に、将来の進路希望や在籍する企業の問題関心に応じて受講科目を選択してください。

履修モデル	マーケティング分析	アカウンティング・ファイナンス分析	人事労務データ分析
人物像	・商品企画職 ・広報企画職 ・最高マーケティング責任者（CMO）	・経営企画職 ・経理財務職 ・最高財務責任者（CFO）	・人事職（主に採用・評価） ・人事アナリスト ・最高人事責任者（CHO）
データサイエンス科目	・データサイエンス概論、意思決定とデータサイエンス、教師あり学習、教師なし学習など		
経済経営専門科目	・経営分析学特講 ・ビジネスエシックス特講 ・マーケティング特講 ・マーケティング戦略論基礎 ・マーケティング・リサーチ特講 ・データ分析実践演習Ⅰ ・データ分析実践演習Ⅱ	・経営分析学特講 ・ビジネスエシックス特講 ・企業分析特講Ⅰ ・企業分析特講Ⅱ ・コーポレート・ファイナンス特講Ⅰ ・コーポレート・ファイナンス特講Ⅱ ・ファイナンス特講	・経営分析学特講 ・ビジネスエシックス特講 ・経営管理論特講 ・経営戦略論特講 ・マネジメント特講 ・ビジネスデータ・マイニング特講 ・人材マネジメント論特講 ・ピープルアナリティクス特講
実践・演習系科目	経営・コンサルティング特別講座Ⅰ、演習Ⅰ～Ⅳ、課題研究など		
	ビジネスリーダーシップ論特講　など		
	DX化時代にふさわしい次世代管理職、経営幹部 ※DX化時代にふさわしい次世代管理職、経営幹部については、それぞれのバックグラウンドに応じて、広く補完的な領域について学習することによって、幅広い視野と見識を身に付ける。 赤字は必修科目		

授業紹介

喜田 昌樹

大学院経済学研究科　教授
専門：経営学（ビジネスデータサイエンス）

喜田昌樹（2019）
『ビジネス・データマイニング〔増補改訂版〕』白桃書房
喜田昌樹（2023）
『ビジネス・データサイエンス入門』白桃書房

講義紹介は動画でも
ご覧いただけます。

データ分析実践演習Ⅱ

この演習では、企業内部のデータ活用を効率的に行う前提条件を身に付けることを目的とします。データサイエンスの基礎と「分析用データ」の作成について、教科書を読むことで理解を深めます。具体的には、データマネジメント（基幹系システム）、ビジネスデータサイエンスでのデータの種類もしくはデータソース、データクリーニングなどを扱います。その上で、実際にエクセルを用いて「分析用データ」を作成する実習を行います。分析用データのための統計分析を行い、分布を明らかにしたり相関分析を行うことで、データの理解を修得します。

ビジネス・データマイニング特講

この講義では、経営戦略論およびビジネスの世界で、データマイニング（AI）の基本的な知識と実例と利用法を習得することを目標とします。データマイニングとは、企業内に蓄積されたデータよりビジネス上の仮説を発見する方法であり、最近注目されているAIに進化しています。このような手法は現在多くの企業で導入されており、国際的な企業（グーグル、アマゾン等）においてもその動向は同じです。そこで、この講義では、企業での実例とともにその利用法を説明します。最近話題になっている組織科学および経営学領域もしくはビジネスでのデータサイエンティスト（AI人材）になるための基礎を習得することを目的とします。

後藤 良介

大学院経済学研究科　准教授
専門：エネルギー経済学、経営データ分析

専門分野であるエネルギーを中心として、機械学習・統計学・数理最適化など定量的手法を適用し、企業の戦略や、望ましい社会システムについての研究に従事

講義紹介は動画でも
ご覧いただけます。

データ分析実践演習Ⅰ

本演習は、ビジネスにおけるデータ活用を想定した分析の実践的スキルを身につけることを目的としています。社会においてデータに基づいた意思決定の重要性が増す中、データを適切に分析し、事象の関係性を正しく把握するとともに、実社会での課題解決のためにAIを活用できる人材が求められています。本講義では、AI・機械学習で用いられるプログラミング言語Pythonによるビジネスデータ分析の手法を学びます。具体的には、課題設定、データ収集、可視化、統計処理、クレンジング、特徴量エンジニアリング、予測モデルの構築など、データ分析の一連の流れを身に着けることで、ビジネス現場で直面する分析課題に対処できる力を養成します。最終的には、実データを用いて、機械学習による予測モデルの構築に挑戦し、データに基づく意思決定能力を高めます。

経営分析学特講

本講義では、企業活動に関連する多様な情報を対象として、組織における課題を解決し、意思決定に結び付ける分析手法を身に着けることを目的としています。近年、世界的には、経営分析学 (Business Analytics)が注目されています。この学問では、実社会のビジネス課題を解決するために、機械学習・統計学・数理最適化などのデータサイエンス領域の手法を活用して、組織の意思決定や行動を促せる人材育成を目指しています。そこで本講義では、経営分析の基本に始まり、ビジネス活動の定量化、AI・機械学習、統計分析、数理最適化、意思決定論、自然言語処理、生成AIのビジネス活用といった多岐にわたるテーマを体系的に学ぶことで、広い視野でのビジネス分析スキルを育成します。これらにより、マーケティング、会計、人事労務など、様々なビジネス分野において横断的に課題に対処し、適切に判断する力を身に着けます。尚、Pythonによるデータ分析を実習したい方は、「データ分析実践演習Ⅰ」を合わせて受講ください。

神長 伸幸

大学院経済学研究科　非常勤講師
ミイダス（株）HRサイエンス研究所長
専門：教育心理学

視覚認知や言語理解、VR環境でのコミュニケーションの研究に従事した後、現在は仕事やスキルの定義、求人と求職のマッチング、転職に伴う不安の低減に関わる研究や職場での活躍に関わる適性やアセスメント方法の検討を行っている。

講義紹介は動画でも
ご覧いただけます。

ピープルアナリティクス特講

この授業では、ピープルアナリティクスを活用した人的資本経営の基本的な概念と価値を理解し、実務運用に必要な分析方法を習得することを目的とします。ピープルアナリティクスを活用しながら、人的資本経営を進めるために必要な分析案を提案できることが到達目標です。
ピープルアナリティクスは企業経営で生じる様々なデータを活用して人材マネジメントにおける意思決定の精度や業務効率・従業員への提供価値を向上させる手法です。近年注目されている手法ですが、本邦では未だ先駆的な試みが行われているのみで、普及に向けてはピープルアナリティクスの手法の価値と実践的な方法を習得した人材の育成が必要です。本科目では、ピープルアナリティクスの枠組み並びに実務例を解説して、基礎的な理解を深めます。さらに、データ分析を体験しながら実務に必要なデータ分析の技術習得を目指します。

充実した教育研究環境

滋賀大学は「数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進」拠点校であり、最新のワークステーションを備えた経営分析用の演習室が整備され、トップクラスの実務家教員を含む教育体制が用意されています。

教員紹介

経営分析学専攻（MBAN）担当教員

研究科長　専攻長

岡本 哲弥（教授）
商学（マーケティング論）

中野 桂（教授）
経済政策（産業組織論）

大濵 巌（准教授）
統計学

岡本 大輔（特任教授）
計量経営学/企業評価論

小野 善生（教授）
経営学／経営組織論

金谷 太郎（准教授）
ファイナンス／計量経済学

菊池 健太郎（准教授）
金融工学

喜田 昌樹（教授）
ビジネスデータサイエンス

楠田 浩二（教授）
ファイナンス/経済学/
数理工学

後藤 雅敏（特任教授）
財務会計/会計情報論/
実験会計

後藤 良介（准教授）
エネルギー経済学/
経営データ分析

澤木 聖子（教授）
人的資源管理/
異文化間マネジメント

新久 章（講師）
統計学/計量経済学

鈴木 清（特任教授）
金融工学/OR/機械学習

陳 韻如（教授）
経営戦略論／
組織間関係論

内藤 雄志（准教授）
数理計画/
協力ゲーム理論

中津 陽介（特任講師）
組織行動論/
人的資源管理論

村松 郁夫（准教授）
コーポレート・ファイナンス

山下 悠（准教授）
商学/ビジネスエコノミクス

渡邉 凡夫（教授）
人文社会情報学

経済学研究科教員

青柳 周一（教授）
日本史

赤塚 尚之（教授）
財務会計

阿部 安成（教授）
日本史

石井 利江子（教授）
産業組織論

井上 俊克（講師）
マクロ経済学

大橋 良生（教授）
会計学

大村 啓喬（准教授）
国際関係論

小倉 明浩（教授）
経済政策

小倉 圭（講師）
スポーツ科学

笠井 直樹（准教授）
監査論

嘉藤 慎作（准教授）
グローバル経済史

金山 知明（准教授）
公法学（税法）

可児島 達夫（准教授）
会計学

川﨑 兼人（講師）
政治経済学/理論経済学

金 秉基（教授）
経済政策/経済開発

近藤 豊将（教授）
理論経済学

近藤 紀章（講師）
都市デザイン/土木計画学

坂田 雅夫（教授）
国際法学

佐野 洋史（教授）
医療経済学

柴田 淳郎（准教授）
経営学/企業統治

鈴木 康夫（教授）
マクロ経済学

清宮 政宏（教授）
商学/マーケティング

竹村 幸祐（教授）
社会心理学

田中 勝也（教授）
環境経済学/空間データ解析

田中 英明（教授）
理論経済学/信用機構

谷上 亜紀（教授）
実験心理学/認知心理学

谷川 義行（准教授）
ミクロ経済学/一般均衡分析

冨田 健一（准教授）
符号理論

鍋倉 聰（教授）
社会学/地域研究

野田 昭宏（教授）
会計学

能登 真規子（教授）
民事法学

坂野 鉄也（教授）
歴史学

福浦 厚子（教授）
文化人類学

府内 直樹（教授）
行動ゲーム理論

松下 京平（教授）
環境経済学/農業経済学

松田 有加（教授）
財政学/租税システム

松田 有加里（准教授）
会計学

御崎 加代子（教授）
経済学説/経済思想

宮西 賢次（准教授）
会計学/財務諸表分析

宗野 隆俊（教授）
社会法学

室 徳圭（准教授）
財政・金融

森 宏一郎（教授）
環境政策/医療政策

山田 和代（教授）
経済政策/日本労働史

横山 幸司（教授）
地方自治/行政経営改革

吉田 裕司（教授）
国際金融/国際経済

和田 佳之（准教授）
環境経済学/公共経済学

神長 伸幸（非常勤講師）
教育心理学

在学生の声

左から　加藤さん　坪井さん　小沢さん

加藤 菜摘さん

2024年度入学

出身大学・学部名：
同志社大学 グローバル地域文化学部（卒）
派遣企業・部署名：
関西みらい銀行 人財サービス部

地方銀行にて新卒入社8年目、直近では銀行業高度化等会社の新設プロジェクトに携わり、新会社にて経営管理業務を担当していました。銀行には業種柄、多種多様なデータが集積されています。一方、他業の金融分野への参入やポストコロナで経営環境が目まぐるしく変化する中、そのような貴重なデータを十分に活用できているとは言い難い状況です。

MBANでは本格的なデータサイエンススキルだけでなく、腰を据えて経営学を学びます。そこに自身のドメイン知識を併せることで、勤務先企業の課題発掘と解決に向けた具体的な学びを得られる唯一無二のプログラムだと感じています。MBAN同期は派遣社会人がほとんどを占め、同業・他業とも情報交換をしながら共に学べる環境の中、新たな気づきを得られることも魅力のひとつ。卒業後は勤務先企業にて、グループ全体・部署横断で協働を起こし、新たな価値を生みだしていける人財になりたいです。

坪井 友紀乃さん

2024年度入学

出身大学・学部名：
滋賀大学 経済学部企業経営学科（卒）

私がこのコースを志望した理由は、データを活かし情報を見える化することで、社会の様々な意思決定において人と人の「間」に生じる摩擦や不平等を軽減し、より平和で公平性のある意思決定プロセスを構築できるのではと考えたからです。学部では経営学を学び、課外では環境活動や社会活動に取り組む中で、データを扱うリテラシーの重要性を感じていたことも志望の背景にあります。

1学期目は、データサイエンス科目を中心に履修しました。統計学や機械学習に関する基礎知識の不足を痛感しながらも、各手法の「本質的な目的、課題設定の方法、分析上の注意点」に注目して学びました。

MBANコースでは聡明で優しい社会人学生の方々に囲まれ、解像度の高い思考や、学びへの意欲、様々な困難にも前向きに取り組まれる姿勢に、大きな刺激を受けています。これからの1年半で行う研究で実際に手を動かし、基礎的な分析能力やデータを使ってコミュニケーションする力を自分のものにしていくことが目標です。

小沢 元さん

2024年度入学

出身大学・学部名：
早稲田大学 教育学部（卒）
派遣企業・部署名：
電通総研 中部豊田技術部

基本的な社会人としてのプロセスは、最初は生活の糧を得ることから始まり、次第に企業に貢献することを目指し、最終的には社会全体に貢献できるようになることだと思っています。しかし、長く企業に所属していると、貢献と利益追求のバランス感覚が鈍り、そのプロセスに違和感を覚えることがあります。そこで、自分自身が納得できる「正しい選択力」を養い、その感覚を整える必要性を感じたため、リスキリングを決意しました。

これまでさまざまな企業のIT導入に従事してきましたが、当校の経営分析学では、ITを通じて解決すべき社会課題の設定スキルを学んでいます。ファイナンス、マーケティング、イノベーション、ソーシャルといった視点から、応用的な課題設定力を身につけ、分析手法を駆使して社会に貢献できる自分を想像しながら日々学びを深めています。今後は、誰にでも理解できるDXの実現を使命とし、これらの知識やスキルを役立てたいと考えています。

Q & A

Q1 なぜ日本で最初に滋賀大学大学院経済学研究科に経営分析学専攻（MBAN）ができたのですか？

A1 経営分析学専攻（MBAN）には、経営学とデータサイエンスの実践的なスキルが必要です。滋賀大学には伝統ある経済学部・研究科と日本のデータサイエンス教育・研究をリードするデータサイエンス学部・研究科が同じ彦根キャンパスにあります。このような恵まれた環境のなかで、MBANは両研究科の強みを生かした文理融合型のプログラムとして誕生しました。

Q2 経営学修士（MBA）と経営分析学修士（MBAN）の違いを教えてください。

A2 経営学修士（MBA）は大学院によって違いはありますが、MBAのパイオニアであるハーバード・ビジネス・スクールが開発したケースメソッドと呼ばれる教育手法が、多くのビジネススクールに採用されていますので、一般的にはMBAは理論やケーススタディを重視します。経営分析学修士（MBAN）では、授業を通じた経営に関する学修だけでなく、実データの分析などデータサイエンスの実践を重視しているため、実社会や実務の現場により近い実践的な学びであるという点にMBAとの違いがあります。マーケティングやファイナンス、人事労務管理といった領域・職務においても、データを活用し分析できる実践的なスキルを修得することを目指します。

Q3 MBANには企業から派遣された院生が多く入学していると聞きました。入学者の属性について教えてください。

A3 令和6年度は多くの社会人経験者が入学し、業種は金融、メーカー、IT、運輸など様々です。職種も営業、マーケティング、経営企画、人事など多岐にわたります。年齢層も幅広いですが、30歳前後の方が多く入学しています。将来、経営企画を担う人材として企業から派遣された方も在籍しています。

Q4 所属している企業の課題解決につながる研究を行いたいと考えています。
社内で保有するデータを用いて修士論文又は特定課題研究を作成することはできますか？

A4 研究テーマや指導教員にもよりますが、所属企業の課題解決や問題関心に即して社内データを用いた修士論文や特定課題研究を作成することができます。特に、企業などにおける特定の課題について、問題解決に導いたり、提案をしたりするタイプの研究や論文は、特定課題研究に相応しいといえます。経営分析学専攻（MBAN）で学んだことを企業に持ち帰って生かしたいという院生は多く、大学院で深く学び、多くの人と交流するなかで新たな発見やアイデアを得ることが期待されています。

Q5 入学後、どのくらい講義や研究に時間を費やす必要がありますか？
夜間や土日だけで修了することはできますか？

A5 1年目は授業を多く受ける必要がありますので、基本的には彦根に通学する必要があります。2年目は必要な単位が修得できている場合は職場に戻って修士論文等に専念することもできます。ただし、必要に応じて研究指導を対面で受けるなど、彦根に通学する必要が生じることもあります。夜間や土日の通学だけで修了することはできません。なお、授業は半期で15回実施する形態や1週間集中で開講する形態があります。

Q6 授業料はどれぐらいかかりますか？

A6 検定料が30,000円、入学金が282,000円、授業料が年額535,800円です。その他、傷害保険料などの諸経費が必要になります。詳しくは入試課までお問合せください。

入試情報

専攻の概要

授業料等

専攻：経営分析学専攻
定員：6名
キャンパス：滋賀大学彦根キャンパス
学生納付金：入学金/282,000円（予定）
授業料/535,800円（予定）

※上記に加え、傷害保険等の諸経費が必要となります。

長期履修学生制度

この制度は、職業を有している等のために標準の修業年限で修了することが困難な学生を対象としています。事情に応じて標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することにより学位を取得することができます。長期履修学生として認められた場合の授業料は、標準の修業年限分の授業料総額を、あらかじめ認められた一定の修業年限で除した額にして、それぞれの年に支払うことになります。

奨学金制度

大学院経済学研究科経営分析学専攻奨学金制度

この奨学金制度は、滋賀大学経済学部・データサイエンス学部の同窓会組織である「陵水会」の支援のもと、優秀な学生に学業に専念してもらうために設立された経済学研究科独自の制度です。

概要等

支援内容 … 入学年の1年間に対する奨学金の給付（年額100万円）
採用人数 … 2～3名程度（入学試験・成績優秀者）　※返済不要
対　　象 … 一般入試及び推薦入学志願者

本学では、日本学生機構以外に、都道府県の教育委員会や地方公共団体及び財団法人等の奨学金について、貸与・給付ともに取り扱っています。

入試制度

選抜種別	選抜方法	出願期間	試験日程
一般入試	筆記試験2科目 （内1科目については統計検定の成績を利用する） 口述試験	【冬季募集】 令和6年 12月16日（月） ～ 12月20日（金） 16時	【冬季募集】 令和7年 1月25日（土）
推薦入試	口述試験		
社会人入試 （一般社会人）	筆記試験1科目 口述試験		
社会人入試 （熟年社会人）	経営分析学専攻の募集はありません	※今年度の夏季募集は終了しました。 参考に実績を掲載します。	※今年度の夏季募集は終了しました。 参考に実績を掲載します。
社会人入試 （派遣社会人）	口述試験	【夏季募集】 令和6年 8月22日（木） ～ 8月28日（水） 16時	【夏季募集】 令和6年 9月12日（木）
外国人留学生入試	筆記試験1科目 口述試験		

※出願期間など変更する場合がありますので、本学ホームページで確認してください。
※一般入試、社会人入試（一般社会人）及び外国人留学生入試においては、出願時に、一般財団法人 統計質保証推進協会の実施する統計検定2級の試験結果レポート（準1級以上合格者については合格証）の提出を必須とします。

入試情報サービス

受験案内、合格速報、出願状況、お知らせなどを提供しています。
入試情報ホームページ　https://www.shiga-u.ac.jp/admission/

QRコード
※対応するスマートフォン・携帯電話で読み取れます。
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

●入試について
入試課　入学試験係
TEL：0749-27-1023
Email：nyuushi@biwako.shiga-u.ac.jp

お問い合わせ

滋賀大学大学院経済学研究科
〒522-8522　滋賀県彦根市馬場1丁目1－1
TEL 0749-27-1030
E-mail: ksyomu@biwako.shiga-u.ac.jp